令和７年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　広徳　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、３年生を対象として、令和７年４月１７日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（４月１４日から４月１７日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問調査

生徒質問調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

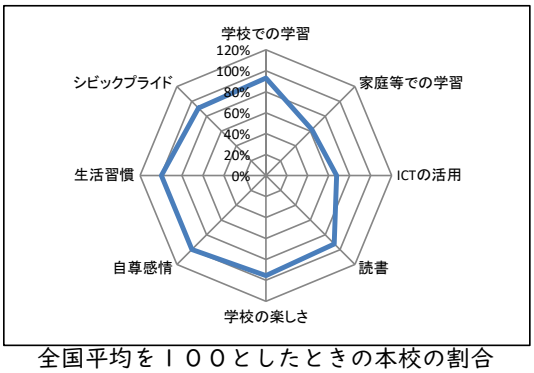
(2)　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	正答率は全国・県平均を概ね下回っており、特に「書くこと」に関する設問で得点が伸び悩んでいる。文章の内容や構成を踏まえて理由や根拠を明確に示す記述が十分でなく、考えを筋道立てて説明する力に課題が見られる。一方で、文章全体から登場人物の性格や表現の効果を捉える読み取りは概ねできており、読むことの領域は比較的安定している。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・物語文における登場人物の特徴を読み取り、文章全体と関連付けて説明する問題 ・資料の内容を踏まえて、適切な選択肢を選ぶ問題	
	努力が必要な問題	・文章の構成や意図を踏まえ、根拠を示しながら自分の考えを書く記述式の問題 ・資料や場面の変化を基に、書き手の意図や工夫を説明する問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	全国・県平均を下回る結果であり、特に関数領域の課題が顕著であった。一次関数の変化の割合やグラフの関係性を捉える問題での正答率が低く、既習事項の系統的な理解と活用に課題が見られる。数と式・図形の基礎知識は一定程度身に付いているが、データの活用以外の領域では全体的に低調であった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・素数の選択や、図形の外角の意味など基礎的な知識を問う問題 ・証明済みの事柄を踏まえて新たに導ける性質を選択する問題	
	努力が必要な問題	・一次関数の変化の割合やグラフの読み取りに関する問題 ・数学的な根拠を挙げて説明する記述式問題全般	

理科	全体的な傾向や特徴など	地層や大地の変化、音の性質、電気の推論、粒子モデルなど、観察・実験を基に考察する問題で正答率が低い。観察結果や条件の違いを踏まえて予想したり、複数の情報を関連付けて説明したりする力に課題が見られる。一方で、安全な実験操作や日常生活に関わる基礎知識、元素記号などの基礎的事項は概ね理解できている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・実験の安全に関する問題（加熱実験の応急処置、火災時の避難行動） ・情報の信頼性を判断する問題	
	努力が必要な問題	・地層の性質や広がり方を読み取り、変化を考察する問題 ・生命領域で、器官の構造や特徴の共通点を関連付けて理解する問題	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を１００としたときの本校の割合

質問調査の結果分析

全国平均と比較して「家庭学習」「ICT活用」「生活習慣」「読書習慣」に課題が見られた。家庭での自主学習時間が短く、宿題以外の学習に取り組む割合も低い傾向であった。また、生活習慣の乱れ（睡眠不足・朝食の欠食等）が、学習意欲や集中力に影響を及ぼしている可能性がある。

さらに、読書量が全国平均を下回っており、基礎的な語彙力や文章理解力の向上に向けた働きかけが求められる。

一方で、学校生活全般への満足度や、友人関係の良好さを示す回答は一定程度見られ、「自分には、よいところがあると思う」と回答している生徒が９割を超えている。これらを踏まえ、学校としては生活習慣の改善と家庭学習の充実を基盤に、ICTの効果的な活用や読書活動の推進を図り、基礎的な学力の定着と主体的に学ぶ姿勢の育成に努めていく必要がある。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・全教科で説明・振り返りの時間を確保し、学習の見通しとまとめを明確化する
・国語科を中心に「根拠を挙げて説明する記述力」の育成と、数学科においては、特に関数領域の補充指導を系統的に実施する
・無解答を減らすために、解答の書き出し例や思考の手順を示し、書くことへの抵抗感を軽減する

②　家庭生活習慣等に関する取組

・１日30分～60分の家庭学習の定着を図るため、家庭学習モデルを学年で共有する
・自主学習ノートの活用を促し、個々の学びの量と質を高める